



米国向けカナダ産針葉樹製材に対し19.31%の暫定的相殺関税適用を米国商務省が決定したことに対し、カナダ西部内陸の製材大手であるスローカン社テリー・アップガード副社長は22日、高付加価値製品を中心に、日本市場を軸とした海外市場強化に取り組んでいくと述べた。既に多数で工場一時閉鎖、労働者の一時解雇が実施されているが、同社ではコスト削減努力を続けることで、工場閉鎖、レイオフは行わないと語った。

当社は長年にわたり米国以外の輸出市場開拓に注力、そのために新製品開発についても力を入れてきた。十日に米国商務省は米国向けカナダ産針葉樹製材に対し、一九・三二%の暫定的相殺関税の賦課を決定。当社はこの決定に対し、今後一層、海外市場の強化と新製品開発に力を入

スローカン社
テリー・アップガード
副社長



日本市場に一段と注力

相殺関税、コスト削減で対処

れていくとの方針を固めた。その際、最重要市場となるのが日本であることは言うまでもない。当社にとつて飛び抜けた海外市場であ

る。われわれは豊富な資源、経験ある人材、最新鋭設備を活用し、日本市場が求める製品品質、多様なサイズ要求に 대응していく考えだ。現在、日本市場は経済の悪化により木材需要も厳しいが、引き続き底力のある市場であると信じており、安定供給に全力で取り組む。

当社独自のマーケティングにより生産コスト削減を進め高品質製品を競争力のある価格で取引先に供給していく。現在、当社では2×4住宅構造材向け製材

(Jグレード・ディメンションなど)、プレハブ住宅用部材、構造用集成材などの各種製品を日本向けに供給しているが、今後も恒常的な生産性向上、丸太リカバリ改善により競争力の高い製品作りに努力していく。

今回の米国商務省決定はカナダ製材業界に大きな打撃となるが、傘下製材工場群の一時ないし永久閉鎖は行わないし、レイオフも考えていない。生産コスト削減で対処していく考えである。